

こちらのコーナーでは、毎回、南多摩病院の各診療科をご案内させていただいております



眼科 Ophthalmology

眼科医長 鈴木 克彦

当院の眼科は、常勤医師1名、非常勤医師1名、また視機能検査を行う視能訓練士とともに診療・検査にあたっています。患者様には、納得が得られる診療と丁寧な説明を心がけております。一般眼科治療（眼鏡処方、角膜疾患、結膜炎、ドライアイ、緑内障、眼精疲労、目の違和感、白内障、網膜硝子体疾患、神経眼科疾患）を行っています。

また、糖尿病網膜症などに対するレーザー治療、眼瞼痙攣、片側顔面痙攣に対するボツリ又ス治療にも力を入れております。後発白内障に対するYAGレーザー治療も行っています。

また緑内障検査として、視野検査のみでなく、視野に異常が出る前の極初期緑内障である視神経の欠損・減少を調べる光干渉断層計も導入しています。

手術は、火曜日、木曜日の午後に行っています。白内障手術（局所麻酔）は1泊2日で行っています。八王子市内だけでなく八王子市外の眼科開業医の先生方からも数多くの白内障手術依頼のご紹介を頂いております。

現在、手術件数の増加に伴い患者様には手術までの期間が約3ヶ月～4ヶ月と非常にご迷惑をおかけしています。

外眼部手術（翼状片、眼瞼内反症 等）は日帰りで行っています。

網膜剥離など当院では施行していない手術・治療に対しては適宜ご希望の病院を紹介させていただき、治療が落ち着きしだい当院で経過観察しています。



～編集後記～

暦の上では春になります。寒い日が続いておりますが、この季節だからこそ空気も澄んでいて晴れた日には、遠くからでも富士山が良く見え、少し得した気分になるのは、わたくしだけでしょうか。

今回は、「病院救急車」の運用について、また放射線からはバリウムについてお話をさせていただきました。次回も皆様に少しでもお役にたてるように記事を発信していきます。（A・S）



医療法人社団 永生会



南多摩病院広報誌

平成27年2月 第5号

みなみ じゅう じ せい

南十字星

発行・編集 / 南多摩病院 広報誌作成委員会 042-663-0111(代表)

〒193-0832 東京都八王子市散田町3-10-1

<http://www.minamitama.jp/>

南多摩病院



◆ 南多摩病院のロゴマークは、赤十字と共に、職員のすべてに対するプラス1精神を表しています ◆

八王子市医師会を中心に「病院救急車」の運用がスタートしました！

今、なぜ「病院救急車」が必要なのでしょう？

救急車による病院収容までの所要時間は、平成24年の実績では全国平均で38.7分、私たち南多摩病院がある東京都においては55分とワースト1位になっています。

これには、救急病院の受入れ困難事例が増加傾向にあること、高齢者救急搬送件数の急増（搬送人員増加の97%は75歳以上の方です）が挙げられます。

そこで、このように急増する高齢の救急患者様への対策として、東京都葛飾区、町田市、八王子市の各医師会が、病院が持っている「病院救急車」を活用し、東京消防庁の救急搬送の一部を担うことに手を挙げました。



医療法人社団 永生会
理事長 安藤 高朗

実際の運用方法は？

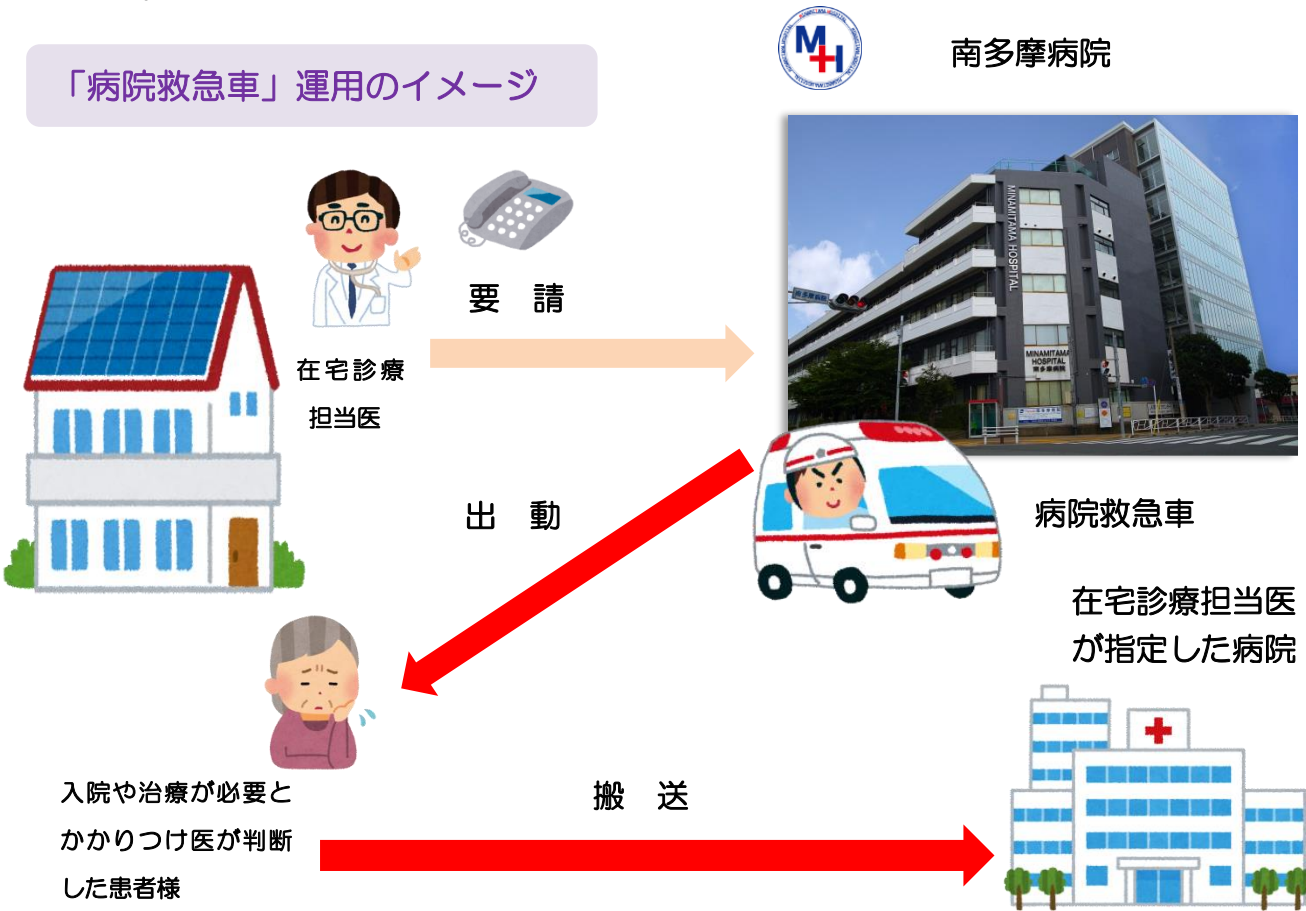
八王子市では八王子市医師会が事務局となり、「八王子市在宅療養患者救急搬送支援システム」を構築し、運営を行っています。

さて、実際の運用方法ですが、八王子市内に居住し、在宅療養されかつICカードをお持ちの患者様、入院患者様で他病院へ治療目的で転院する必要があると医師が認めた患者様、在宅療養の患者様で、入院や治療が必要とかかりつけ医が判断し（次のページにつづきます）

た患者様に対して、在宅診療担当医、訪問看護師、高齢者施設の医師・看護師が、病院救急車を保有する病院（現在は、八王子市内では南多摩病院のみ）に電話すると、病院救急車が駆けつけ、看護師と救急救命士が必要な措置を行いながら予め決められた病院に搬送するものです。

なお、病院救急車の利用に際して、搬送費用を利用者様に請求することは有りません。

「病院救急車」運用のイメージ



このコーナーでは、皆様のお役に立つ情報、また南多摩病院の取組みをお知らせします。

胃の検査などに使うバリウムは、なぜ美味しくないの？

南多摩病院 医療技術部 放射線科

診療放射線技師とは？

皆さん、こんにちは。はじめに、皆さんが整形外科や健康診断を受診される際にお目にかかります、私たち放射線科の診療放射線技師についてお話をさせていただきます。

1968年までは診療エックス線技師(レントゲン技師)としての資格でしたが、X(エックス)線だけではなく、 α (アルファ)線、 β (ベータ)線、 γ (ガンマ)線、粒子線、高エネルギー放射線など広範な放射線を使った医療行為(核医学検査、放射線治療など)に従事する為、その後、診療放射線技師としての資格に切り替わりました。

現在では放射線を使用した検査だけではなく、MR検査、エコー検査、眼底カメラなども取り扱う事が出来、昨今の画像デジタル化により情報処理、ネットワーク分野も手掛けるようになりました。

また、教育機関も短大等から大学等に変遷してきています。



放射線について。

私たちの日常生活において太古より放射線は切っても切れない関係にあります。宇宙から降り注ぐ宇宙放射線、土や水などの中に混じっている放射性物質など。

これらは意識する事無く、日光浴や食事をする事で被ばくします。地域によっても差がありますが、年間平均で胸部レントゲン写真1枚分位(0.1mシーベルト)の放射線を被ばくしています。また、飛行機に乗ると成層圏近くに行きますので地上よりもっと被ばくします。概算ですが、東京からニューヨークへ飛行機で行った場合、胸部レントゲン1枚分位の被ばく量になります。

本題になります。

さて、本題になりますが、胃の健診などで使われるバリウム(正式には硫酸バリウムと云います)は皆さんよくご存じだと思いますが、美味しくないですね。私は小麦粉を水で溶いたようにいつも感じますが苦手な方も多いかと思います。よく、もっと美味しくして欲しいと言われますが、美味しいと胃液が出てしまうので美味しく出来ないのです。胃液はバリウム検査にとって大敵です。胃液の量によって検査の質が決まってしまう。美味しく出来ないのはもちろんですが、たばこやコーヒーなども胃液分泌を促進してしまうので、前日からの食事制限と併せて控えるようにして下さい。

平成26年11月22日(土) 南多摩病院主催第9回公開講座が開催されました！

今回のテーマは、

①「貧血について」

担当：南多摩病院 人工透析センター医長 小田和 昌彦

② 検査で何がわかるの？

～八王子市健康診査結果の見方と南多摩病院で行っている検査～

担当：南多摩病院 臨床検査科 臨床検査技師 上野 正樹



満員御礼

この公開講座は、無料で、地域の皆様を対象として、医師や看護師、コメディカル等が医学や健康に関する話題を提供し、南多摩病院を深く知っていただくことを目的に開催しております。今後も、継続して行っていくしますので、次回のテーマや開催時期はチラシを通じてご案内させていただきます。